

おうちで食育 夏休みに八王子の野菜を食べようコンテスト

Let's try food education at home!

国島ゼミ鈴木グループ

鈴木将光¹⁾, 伊東秀敏¹⁾, 兼城彩衣¹⁾, 田代英一¹⁾

指導教員 国島弘行¹⁾

1) 所属先：創価大学 経営学部 経営学科 国島弘行研究室

キーワード： 食育・八王子の野菜・地域の学生

・はじめに

八王子では様々な食育推進が行われている。その1つである健康フェスタ・食育フェスタ(2019)は参加者1万人以上という結果であった。このことから、八王子市民は食育への関心が高く、食育に関する新しい取り組みも受け入れてもらいやすいのではないかと考えた。食育についての新しい取り組みについて対象を近年問題視されている子供の偏食の解決に設定し調査していく中で八王子は農業が盛んであることを知った。実際に、ジャパンクロップスでは八王子市の農業について「八王子市の農業は、農業産出額ベースで東京都内順位3位、全国順位1010位となっています。」と述べられている。そこで、子供のころから地産地消を実感し、おいしさを感じることが偏食の解決、食育の推進につながると考え、小学生の夏休みの課題として「おうちで食育」を提案する。

・小学生における食育の重要性

提案の内容に入る前に、今回対象として選んだ小学生の食育の重要性について考える。小学生時代の食育に求められることは、食に関する知識や体験を広げてあげることである。この時期に地産地消の重要性、主食、主菜、副菜などのバランスの取れた食事についてなどを体感することで、青年

時代に自分自身で健康や、環境への配慮をした食を選択するための基盤をつくることができると考えられる。だから、単純に知識を伝達するのではなく、食について考えるきっかけになる課題を出そうというのがこの提案だ。

・おうちで食育の内容

「おうちで食育」は小学5、6年生を対象に八王子の野菜を使った料理の写真や絵とレシピのポップを作成し夏休みの課題として提出してもらうものだ。この課題は市内でのコンテスト形式を想定しており、小学校から提出された中で入賞9人大賞1人を考えている。大賞者、入賞者のポップを道の駅などに張り出し、副賞としてそれぞれに図書カードを配布する。選考方法はまず学校のクラスごとに代表を決めてもらい、作成したポップを回収。その中から上位10名を選び、選ばれた10名のポップの中からSNSもしくは、八王子のホームページに投票フォームを用意して大賞を決めるという方法をとる。

・おうちで食育のメリット

前述したとおり、子供の偏食が社会問題となっている。ある程度の野菜嫌いは仕方がないと考えるが、多くの野菜が育てられている八王子で野菜

にふれないのはもったいない。「おうちで食育」の目的は小学生に健康のためにも八王子の野菜を食べてもらうことにあるのはもちろん、コンテスト形式にすることで選考する学生やポップを張り出す道の駅などの地域全体を巻き込んだ活動になる。課題の達成のために料理を必要とする以上多くの家庭では親の協力が求められ、子供が親から料理を学ぶ機会にもなると考える。当然、家庭の事情などで課題の達成が難しい子供もいると考えられるので、課題の見本として1つおすすめレシピのポップを提示しておき、それを自分で写すことでも課題の提出を可能とすることで対策することができる。その際の見本のレシピを野菜の生産者の方のおすすめレシピにすることで、保護者の方にも興味を持ってもらいやすい課題になると考える。

・学生のかかわり方

おうちで食育のメリットで記述した通り、上位10名への選考は八王子の学生にお願いしたい。ここでいう学生は基本的には大学生を想定しているが、八王子の高校生などに協力を要請できるのであれば、検討したい。また、大賞者と入賞者のポップを掲示できる形にし、複製する作業も学生に依頼する。このように1度関わってもらうことで、投票フォームの拡散にも期待することができる。

・実現のために

今回の提案は学校の課題という教育の分野に入れる内容であるため、学生主体では行うことはできない。そのため、多くのことを市役所の方、保健所の方にお願いする形となる。具体的にはまず、夏休み前までに各小学校への呼びかけ、課題の準備（見本のポップの作成）と配布、回収。ポップを掲示することになる道の駅などへの呼びかけ。夏休み中に学生ボランティアの募集。投票開始までにSNSもしくはホームページの投票フォームの用意。最後に副賞の用意となる。

・まとめ

今回の提案は教育面にも踏み込んだものであり、

実現性はあまり高くないといえるかもしれない。実際実行する過程で、個人情報の管理や運営での金銭面、子供に嫌いなものを食べさせる教育はよくないなどとの批判的な意見がでることも問題点としてあげられる。さらに、料理人が審査をするような小学生の料理コンテストや、俳句のコンテストとは違い、地域に気に入られたというだけであって、社会的な意味のある賞ではない上に参考データがない分、食育に関しても効果を裏付けできるわけではない。しかし、一般的に行われているような料理人が審査する小学生の料理コンテストとは違い、技術や知識ではなく子供をターゲットとした食育や地域、家族との繋がりを築くものになると考えている。基本的に毎年入れ替わり、4年間で多くの人が八王子を出てしまう大学生は地域の活動に関わりにくい存在ではある。しかし、短期間であっても、八王子にいるのだから今回の提案に限ったことではなく、積極的に協力するような体制を作っていくたいと考える。

【参考文献】

はちおうじっ子ホームページ

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachioji-kids/004/005/p020557.html>（最終閲覧日 2020年10月18日）

埼玉県鶴ヶ島市ホームページ

<https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/page006589.html>（最終閲覧日 2020年10月18日）

ジャパンクロップス

<https://japancrops.com/municipalities/tokyo/hachioji-shi>（最終閲覧日 10月18日）